

多摩小平保健所 感染症NEWS

注意してほしい感染症

- 伝染性紅斑は依然警報レベルが続いています。
- 百日咳が増えています。多摩小平保健所管内では、今年に入ってからすでに昨年1年間の2.5倍の届出数となっています。乳幼児では死に至る危険性もあるため、定期予防接種を確実に受けましょう。

保健所からのお知らせ

百日咳が増えています！！

百日咳とは？

百日咳菌による呼吸器感染症です。どの年代でもかかりますが、乳児では無呼吸発作や肺炎など重篤になる場合があります。特に**生後6か月未満**では死に至る危険性もあるため注意が必要です。主に、患者の咳やくしゃみなどのしぶきによって感染します（飛沫感染）。



どんな症状が出る？

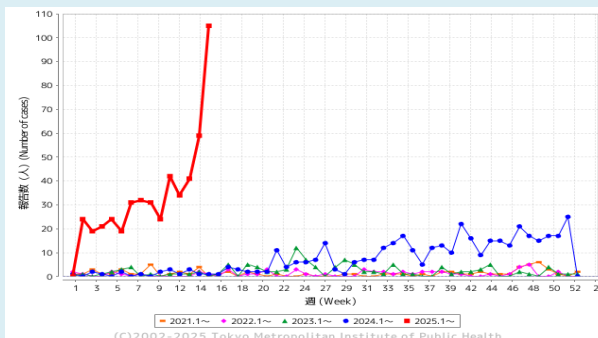
- 1) **カタル期**（約2週間）
風邪症状がみられ、徐々に咳が強くなる
- 2) **痙咳期**（約2～3週間）
短い咳が続いた後、大きく息を吸う発作を繰り返す
- 3) **回復期**（2・3週～）
徐々におさまり、時折発作性の咳が出る

※大人の場合、症状が軽く、典型的でない場合があります。

予防方法は？

- ・予防接種が有効です。**定期予防接種**（4種混合または5種混合ワクチン）を確実に行いましょう。
1～3回目：生後2か月以上から、20日以上あけて3回
4回目：3回目接種終了後から6か月以上あけて1回
- ・予防接種を受けてから時間が経つと免疫が低下してきます。大人の場合、症状が軽く受診・診断が遅れて感染源となることがあります。咳がある時は**咳エチケット**を心がけましょう。

東京都の流行状況



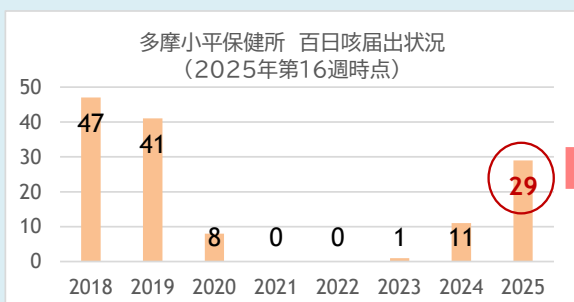
青線が2024年
赤線が2025年
です！



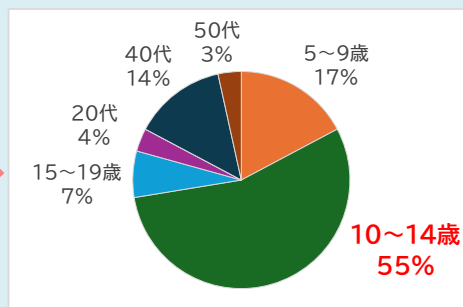
多摩小平保健所
おしゃべりモスクー
あずくま

東京都感染症情報センターホームページより

多摩小平保健所の届出状況(2018～2025年第16週)



年代内訳



多摩小平保健所作成

グラフの通り、多摩小平保健所管内では第15週時点で**昨年の年間届出数の2.5倍**となりました。今後の動向に注意が必要です。**咳が長引く場合は早めに医療機関を受診しましょう。**

【参考】ひとくち感染症情報「百日咳が流行しています！！」（東京都健康安全研究センター）

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/assets/diseases/pertussis/hitokuchi-joho.pdf?20250321>